

とうきょうすくわくプログラム活動報告

令和7年7月～令和8年3月 ドリームキッズ花南保育園0歳児クラス

◎テーマ「木の玩具に触れ、木のぬくもりを知る」

◎設定理由：身近にある樹木のあたたかみに触れ、感触や香りを五感を使って感じ、より木に興味をもてるようにする。また、口に入れても安心な素材なので、自由に遊ぶことができる。

◎活動内容：

①木製のボールやコマ、楽器などを日頃から遊べるよう手の届く環境に置いておき、興味をもったタイミングで遊んでみようとする。

②触れたり、舐めたり、観察をしたり、五感を使って木の感触を知ることからはじまり、徐々に手のひらや指先などを使って遊ぼうとする姿に変化していく。



上の写真は玩具を導入した初期の頃の様子。くるくる回るコマの様子を不思議そうに見て楽しんだり(=視覚)、手に触れて感触を知ったり、口に入れてみたり(=触覚)、遊ぶというよりは“たしかめる作業”という印象が強かった。

色付きのボタン部分を押しと音が鳴る玩具。遊び方を覚えるとますます好奇心が出てきて、独自の遊び方を展開するようになった。

ある日突然、玩具をひっくり返すようになり、危険回避や破損の恐れがあったので元に戻すも何度もくり返すように。その理由が、ひっくり返すことですべてのボタン部分に同時に圧がかかりきれいな和音を奏でるからであった。



最近の様子。コマを指先でつまみ、ひねって回そうとする意思がうかがえる(まだ回せるまでには至っていない)。
電車の玩具は磁石で連結させるが、S極とN極を使いこなさないと反発を起こすため、向きを変える必要があるが、これも経験から学び自然とできるようになった。

【まとめ】0歳児クラスの発達に沿った遊び方を見ることができ、約一年を通してこどもたち自身でここまで使いこなす遊びこめるようになった。また、独自の遊び方を見つける子が多く、たとえばコマを逆さまにして回してみたり、時にはおままごとの食べ物に見立てていたり、木のボールをすべり台から転がしてみたり、従来の使用方法とはちがう発想で遊びを広げていく姿に感心した。